教育委員会事務事業
点検・評価報告書

（令和７年度事業）

令和８年８月

小松市教育委員会

は　じ　め　に

この報告書は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき、小松市教育委員会が令和７年度実施した事務事業の取り組みについて自らその状況について点検し評価を行い、公立小松大学　志村　恵　学長　にご意見をいただき、まとめたものです。

令和８年８月

小松市教育委員会

【参考】「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

－目　次－

Ⅰ　学識経験者の意見等 ····· 1

Ⅱ　こまつの教育大綱

１　理念及び方針 ····· 4

２　政策立案にあたっての５つの視点 ····· 4

３　具体的なテーマ ····· 5

４　教育大綱に基づく事務事業の点検・評価 ····· 6

Ⅲ　事務事業の点検評価

１　点検評価の概要及び一覧表 ····· 7

２　事務事業点検評価票（個別評価票）

視点１　こまつで遊び・学び・育む ····· 8

視点２　伸ばしこぼれなく、個々の持つ可能性・能力を引き出す ····· 16

視点３　時代に即した持続可能な学校教育環境を整備 ····· 22

視点４　幼児教育から大学教育までの一貫教育で学びをアップグレード ···· 27

視点５　新たな学び・新たなスキルでウェルビーイングを向上 ····· 29

Ⅳ　令和７年度小松市教育委員会の活動状況

１　小松市教育委員会 ····· 35

２　教育委員会会議の実施状況 ····· 35

３　総合教育会議の実施状況 ····· 35

４　教育委員が出席した主な活動内容 ····· 36

Ⅰ　学識経験者の意見等

小松市教育委員会 点検・評価報告書（令和７年度事業）について下記のとおり講評いたします。

2026 年 8 月 5 日

氏 名：志 村　恵

意　見　等
Ｏ．はじめに 小松市教育委員会が，「こまつの教育大綱　Learn Well，Live Well　いつだって、誰だって、新しい可能性を」（2025 年 4 月）に示されている教育理念・教育目標・教育方針等のもと 2025 年度に実施した事業に関する『教育委員会事務事業 点検・評価報告書』（令和 7 年度事業）に対して，以下，全体講評および注目すべき事業の成果と課題等について所見を述べる。 １．全体講評 『報告書』の概要一覧によると，行われた 27 の事業（昨年度より 19 事業減。これは新大綱のもと，5 つの視点のもとで事業を絞り込んだ結果である）のうち，A 評価（十分達成できた）が 15 事業（55.6%），B 評価（概ね達成できた）が 12 事業（44.4%），C 評価（やや不十分であった）と D 評価（達成できなかった）はそれぞれ 0 事業（0%）であった。昨年度と比べて，A 評価の割合が 10%ほど減少しているが，これは当該年度が，新大綱に基づく事業展開の 1 年目であり，年次進行的に妥当なものと思われる。実施された事業に関しては，全体を通じて，誠実な事業遂行と点検・評価がなされており，そのことが全ての事業を B 評価以上に至らせたものと評価できる。 ２．注目すべき事業の成果と課題（例示） 「視点 1　こまつで遊び・学び・育む」の「体育教育推進事業」（A 評価）においては、運動に親しむ機会の積極的提供によって，体力向上および「経験格差」の解消につながる取り組みができていると高く評価する。「経験格差」の問題は，大きな社会課題であることから，他のさまざまな取り組みと連動して，「伸ばしこぼれ」のない小松市の実現に今後もさらに一層努力願いたい。また，「いじめ・不登校対応事業」（A 評価）では，SSW の学校訪問，ステッ

プルームの拡充等の取り組みにより，不登校者数が減少（16 名減）している。中学校の在籍者数が増えたにもかかわらず，不登校の生徒数を減少させたことは，この事業の成果と言えよう。さらに，「読書活動の推進（利用サービス）」（A 評価）と「読書活動の推進（おはなし会やその他イベント）」（A 評価）の両取り組みの連動により，絵本館の来館者数と貸出冊数が伸びているが，これは視点 5 の「読書活動の推進」（A 評価。図書館本館・南部図書館）との連携も背景にあると思われ，こうした横断的な連携（学校図書室も含む）によって，さらに市民が読書になじんでいくことを期待したい。一方，「キャリア教育推進事業」では，「児童生徒の職業観やライフプランニング能力の充実を図る」との定性的 KPI を設定しているが，当該年度では達成度「B」と評価されている。「キャリア」とは，単に就職に限定されたものではなく，生涯を通じたものでもあるので，今後一人ひとりの児童・生徒が自分のキャリアについて考え・計画する力が得られるように取り組みを強化されたい。

「視点 2　伸ばしこぼれなく、個々の持つ可能性・能力を引き出す」は，小松市の教育行政の中心的な課題と見なしうる。当該年度では，全ての事業・取り組みが「B」評価とされているが、5 年間の 1 年目であり，これはやむを得ないことと思われる。本視点は大変意欲的なもの（「取りこぼし」ではなく「伸ばしこぼれ」）であり，教育委員会と各学校がしっかりと連携し，また地域のリソース等を積極的に利用しながら，市全体で取り組んで行くべきと思われる。

「視点 3　時代に即した持続可能な学校教育環境を整備」では，4 事業が A 評価となっている。施設の改修・更新が順調に行われているほか，「外国人児童生徒日本語初期指導」（A 評価）では，各校の担当教員と日本語支援員の連携，保護者へのより緊密な連絡等によって，切れ目のない支援につながっている。また，「ICT 教育環境推進事業」（A 評価）では，AI 型学習ドリルの利用や ICT 機器の無線化・クラウド化等によって，「実効性のある学校 DX」の実施が順調に行われていると評価できる。現代社会にあって，児童生徒たちが AX（AI トランスフォーメーション）・DX にしっかりと対応できるスキルを習得することが今後ますます求められるので，さらなる創意・工夫を期待したい。

「視点 4　幼児教育から大学教育までの一貫教育で学びをアップグレード」における「学校及び家庭との連携を目指した教育相談体制づくり事業」（A 評価）では，「教育相談」「ふれあい教室」「訪問相談」の 3 部門の連携及び，学校や他の専門機関との情報共有による支援強化がなされていると評価できる。また，「学校とひとともものづくり科学館、教育研究センターの連携（教育施設としての活用）」（A 評価）は，視点 5 の「「楽しむ、学ぶ、挑む」サイエンスの推進」（A 評価）と連動していると思われるが，特に科学館における小中高の学び合いの機会を通じた，理科への興味関心の向上が図られている。公立小松大学とのサイエンスヒルズにおけるプログラミング教室等の連携が今後さらに深まることを期待する。

「視点５　新たな学び・新たなスキルでウェルビーイングを向上」では，「ICT を活用した学びの推進事業」，「生涯学習の推進」及び「総合的な探究の時間の充実による生徒の主体性・社会性の育成」の３事業が B 評価であった。主体性や社会性の育成は，自立した市民の涵養という市民社会の教育目標には欠かせないものであり，これを「探究」の時間を通じて行うことは，小松市の教育にとって極めて重要である。KPI はまだ未達成であるが，「フィールドワークで得た情報の整理・分析や考察の場面で活発な意見交換ができるよう指導する」ことや「生徒の発表機会を増やし、教職員の発表評価方法も工夫する」ことなどによって，今後，小松市で育った児童・生徒が，主体性や社会性の高い，社会で活躍できる人材となることを大いに期待したい。

３．まとめ

前述のように，2025 年度の教育委員会事務事業は，同年４月に制定された『こまつの教育大綱』に基づくものである。同大綱は，「1．こまつで遊び・学び・育む」「2．伸ばしこぼれなく、個々の持つ可能性・能力を引き出す」，「3．時代に即した持続可能な学校教育環境を整備」，「4．幼児教育から大学教育までの一貫教育で学びをアップグレード」及び「5．新たな学び・新たなスキルでウェルビーイングを向上」との５つの視点のもとに教育政策を立てた上で，「幼児期・小中学校」，「高校・大学・社会人」，「教育体制」，「教育環境」，「市民生活」の５つのカテゴリーのもとに 24 のテーマを設定している。そして，その 24 のテーマを視点ごとに設定した 27 の事業にさらに振り分けるかたちとなっている。たとえば，視点 1．の「こまつで遊び・学び・育む」の具体的事業である「体育教育推進事業」には，①体験，②連続性という２つのテーマをあてられている。このように，全ての事業に内包されているテーマが示されており，いわばカリキュラム・マップのような形式になっている。この仕組みは，事業ごとにテーマを置くことで，その事業の目指している目標がより強く意識されることになると思われる。今後，そうしたテーマを意識した事業展開により，より大きな成果が得られることを期待したい。

AX・DX，環境問題，少子高齢化・人口減少等の社会課題を見据えながら，一つひとつの事業に誠実に取り組み，新たに設定された KPI（定量的 KPI と定性的 KPI が事業の性質に即して適切に設定されている）をしっかりと達成しつつ，小松市の教育が「人々の成長を促し，それが個々の人生の充実につながり，社会全体の発展を目指す教育」となっていくことを強く望む。

Ⅱ　こまつの教育大綱

１　理念及び方針

グローバル化の進展などにより社会が多様に変化する中、教育に求められる役割は、ますます大きくなっています。小松市教育委員会では「Learn Well, Live Well いつだって、誰だって、新しい可能性を」を教育理念とし、教育、学術および文化の振興に関しての総合的な施策の体系を示すため、令和７年４月に「こまつの教育大綱」を定めました。

本市は幼児教育から高等教育まで一貫した教育環境を提供し、地域の伝統文化や自然、国際空港や新幹線駅といった都市機能を活用することで新しい可能性を見出す学びを重視しています。この学びを通じて、人々の成長を促し、それが個々の人生の充実につながり、社会全体の発展を目指す教育を構築していきます。

２　政策立案にあたっての５つの視点

小松市の目指す教育の実現のため、次の５つの視点を踏まえ、教育政策を展開していきます。

Learn Well, Live Well
いつだって、誰だって、新しい可能性を

視点 1	こまつで遊び･学び･育む
視点 2	伸ばしこぼれなく、個々の持つ可能性･能力を引き出す
視点 3	時代に即した持続可能な学校教育環境を整備
視点 4	幼児教育から大学教育までの一貫教育で学びをアップグレード
視点 5	新たな学び･新たなスキルでウェルビーイングを向上

３　具体的なテーマ

幼児期・小中学校		
①	体　　験	こまつの特長である伝統文化や自然に触れ、本物を体験し、特に幼児期においては多様な遊びを通した学びを実践する
②	連 続 性	幼児期から児童期にかけ、関係機関の連携を通じて、学びの芽生えと自覚的学びの調和が取れた教育を展開する
③	国 語 力	学びの基礎となる「聞く」「話す」「読む」「書く」の国語教育を重視する
④	郷 土 愛	生まれた地域、ふるさとの魅力を学び、知ることで、郷土愛を育む
⑤	可 能 性	これまでの底上げ教育だけではなく、引上げ教育・キャリア教育を実践することで、こどもたちの多様な可能性を後押しする
⑥	協　　働	様々な属性や個性、背景を有する者との協働的な学びを実践する
⑦	主 体 性	成功体験を通して、こどもたちの意欲・やる気を向上させることで主体性を育む
⑧	国 際 性	異文化や異なる文化を持つ人と触れ合うことで、新しい世界への扉を開く
⑨	デジタル	急速に進展するデジタル社会に対応できる情報リテラシーの獲得を目指す
高校・大学・社会人		
⑩	人材育成	地域を深く知り、世界でも活躍できる人材の育成を目指す
⑪	研　　究	専門的な研究活動や産学連携により、さらなる高等教育の高度化を図る
⑫	外国語留学	外国語教育の充実により、活躍の場・可能性を引き出す。 地域を限定することなく活躍する多様な力を育成するため、海外留学及び外国人留学生受入れを推進する
⑬	キャリア	一人ひとりの目指す多様なキャリアに応えられる教育を実践する
⑭	学び直し	リスキリングやリカレントなど、広く大人が学び直すことのできる場を提供する
教育体制		
⑮	連　　携	幼稚園やこども園と小学校との連携を強化し、幼小接続が円滑に行われる体制を構築する
⑯	個　　性	一人ひとりの個性を認め、自己実現が可能となる指導を実践する
⑰	専 門 性	資質の向上や専門性を高めるため、教師自身の主体的な学びを促進する
⑱	デジタル	教育DXの推進により、こどもたちに最適な学びを提供するとともに、校務の負担軽減など業務効率化にも取り組む
教育環境		
⑲	最 適 化	あるべき教育像の実現のため、社会変化に対応した学校配置を検討する
⑳	共　　生	多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の共生社会の実現に向けた教育を推進する
㉑	サポート	地域における教育に係る諸活動に対して支援する
市民生活		
㉒	活 性 化	文化・歴史・スポーツなど、生涯学習活動やスポーツ活動を支援し活性化につなげる
㉓	生涯学習	生涯にわたる余暇活動等における教えや学びの活動環境を整える
㉔	全 世 代	食や健康、趣味活動など、市民間の交流や健康ライフに資する活動の展開を支援する

４　教育大綱に基づく事務事業の点検・評価

新たな教育大綱は、計画期間を令和７年度から令和 11 年度までの５年間とし、取組を推進するものです。また、教育目標を「あらゆる世代の成長が社会の持続的な発展に」と掲げるとともに、教育方針を「誰もが輝ける『学びの Best Balance』」と定め、その実現を目指します。

実現に向けた政策立案にあたって５つの視点を、さらに 24 の具体的なテーマを設定し、幼児期から社会人までの一貫した学びの充実、教育体制の強化、教育環境の整備、市民生活における学びの充実など、幅広い分野にわたる取組の方向性を示しています。

今回、点検・評価を実施するに際し、教育大綱で示す５つの視点及び 24 の具体的なテーマに基づき、教育委員会が実施する各種事務事業を体系的に整理しました。これにより、施策の方向性と各事務事業との関連を明確にするとともに、各取組の実施状況や成果、課題を把握しながら、教育大綱の実現に向けて着実な進捗管理を行います。

※８ページからの点検評価票の KPI（目標・指標）は、令和７～11 年度の５年間のものとする。

参考＞教育大綱体系図



Ⅲ　事務事業の点検評価

１ 点検評価の概要及び一覧表

○点検評価の概要

教育大綱の実施計画に基づいた27事業について、教育委員会において点検評価を行い、次のＡ～Ｄの４段階で達成度を評価しました。

達　成　度	評価結果		参考：評価基準（目安）
	事業数	割合(対全事業数)	
「A」十分達成できた	15　事業	55.56　%	81～100%
「B」概ね達成できた	12　事業	44.44　%	61～80%
「C」やや不十分であった	0　事業	0.00　%	41～60%
「D」達成できなかった	0　事業	0.00　%	0～40%
計	27　事業	100.00　%	

○点検評価一覧表

視点１　こまつで遊び・学び・育む

事　　業	テーマ	担当課	評価	頁
体育教育推進事業	①体験　②連続性	学校教育課	A	8
安全・安心でおいしい学校給食の提供	④郷土愛　㉔全世代	学校教育課	A	9
いじめ・不登校対応事業	⑥協働　⑳共生　⑯個性	学校教育課	A	10
キャリア教育推進事業	⑬キャリア　⑤可能性　⑩人材育成	学校教育課	B	11
子供歌舞伎「勧進帳」上演事業	①体験　④郷土愛　⑦主体性	生涯学習課	A	12
青少年交流事業	④郷土愛⑩人材育成⑧国際性⑫外国語･留学	生涯学習課	B	13
読書活動の推進（利用サービス）	①体験③国語力㉓生涯学習㉔全世代	空とこども絵本館	A	14
読書活動の推進（おはなし会やその他イベント）	①体験③国語力㉓生涯学習㉔全世代	空とこども絵本館	A	15

視点２　伸ばしこぼれなく、個々の持つ可能性・能力を引き出す

事　　業	テーマ	担当課	評価	頁
学校評価システム	⑰専門性	学校教育課	B	16
学校研究支援事業	⑰専門性　⑳共生	学校教育課	B	17
学力向上事業	⑨デジタル　⑰専門性	学校教育課	B	18
英語教育推進事業	⑧国際性　⑤可能性	学校教育課	B	19
英語力・コミュニケーション能力の育成	⑩人材育成　⑫外国語･留学	小松市立高校	B	20
積極的な地域貢献活動への取り組み	⑩人材育成	小松市立高校	B	21

視点３　時代に即した持続可能な学校教育環境を整備

事　　業	テーマ	担当課	評価	頁
教育環境の改善及び整備	⑲最適化	教育庶務課	A	22
学校施設のリニューアル	⑲最適化	教育庶務課	A	23
外国人児童生徒日本語初期指導	⑧国際性　⑳共生	学校教育課	A	24
ＩＣＴ教育環境推進事業	⑨デジタル　⑲最適化	教育研究センター	A	25
学校開放推進事業	㉑サポート　㉒活性化　㉓生涯学習	生涯学習課	B	26

視点４　幼児教育から大学教育までの一貫教育で学びをアップグレード

事　　業	テーマ	担当課	評価	頁
学校及び家庭との連携を目指した教育相談体制づくり事業	②連続性　⑦主体性	教育研究センター	A	27
学校とひとともものづくり科学館、教育研究センターの連携	⑩人材育成　⑥協働　⑤可能性	ひとともものづくり科学館	A	28

視点5　新たな学び・新たなスキルでウェルビーイングを向上

事　　業	テーマ	担当課	評価	頁
研究、研修事業	⑩人材育成　⑰専門性	教育研究センター	A	29
ＩＣＴを活用した学びの推進事業	⑨デジタル　⑱デジタル	教育研究センター	B	30
生涯学習の推進	⑬キャリア⑭学び直し㉓生涯学習㉔全世代	生涯学習課	B	31
読書活動の推進	①体験③国語力㉓生涯学習㉔全世代	図書館	A	32
「楽しむ、学ぶ、挑む」サイエンスの推進	⑩人材育成　⑨デジタル　⑭学び直し	ひとともものづくり科学館	A	33
総合的な探究の時間の充実による生徒の主体性・社会性の育成	⑩人材育成　⑬キャリア	小松市立高校	B	34

点検評価票

事業名	体育教育推進事業	新規・継続	担当課
		継続	学校教育課
視点	１．こまつで遊び・学び・育む		
テーマ ※複数該当の場合は複数選択	①体験	②連続性	
目的	児童生徒が運動に親しむ資質・能力の育成を図る		
KPI （目標・指標）	全小中学校において各学校の課題に応じた体力向上プランの実施		
事業内容	・「体力向上１校１プラン」の充実 ・「スポチャレいしかわ」の取組推進 ・「市体力向上推進事業」の実施		

【当該年度の実績、評価等】

実績	・各校が体力アップのプランを作成し、体力向上に向けての取組を実施した。 ・「スポチャレいしかわ」に全小中学校が取り組んだ。 ・月津小学校の中学年を対象に、北陸体力科学研究所の指導のもと、跳運動に取り組んだ。	
評価 A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず	達成度 A	評価のポイント（KPIで数値目標があるものは達成数値も記載） ○「体力向上１校１プラン」では、自校が立てた目標を達成するため、各学校に応じた取組を行い、２学期、３学期に再度測定を行い評価していた。 ○「スポチャレいしかわ」に計画的に取り組んでいる。取組学級数は、R5は96％、R6は99％、R7は96％と高い水準を維持している。また、種目の中では、40ｍと長なわにおいて、ベスト部門やチャレンジ部門で入賞した学級が多くみられた。 ○体力向上推進事業では、４回の跳動作の指導により、３年生の男女、４年生の女子は全国の平均的な記録の伸びに比べ、それを上回る記録の伸びがみられた。
課題、次年度取組みへの改善点	・市体力向上推進事業が令和７年度で終了。これまで事業で実施してきた体操や運動遊びを授業に取り入れ継続的に運動を実施していく必要がある。 ・「体育が楽しい」と肯定的な回答をする割合を高めるために、教材研究はもとより、様々な教育活動の中で、運動に親しむ機会を確保していく必要がある。 ・体育の見方・考え方である「する」「見る」「知る」「支える」を働かせて、スポーツとの多様なかかわり方を体験させていく必要がある。	

点検評価票

事業名	安全・安心でおいしい学校給食の提供	新規・継続	担当課
		継続	学校教育課
視点	1.こまつで遊び・学び・育む		
テーマ ※複数該当の場合は複数選択	④郷土愛	㉔全世代	
目的	安全・安心でおいしい学校給食を提供することで食に対する興味関心を高める		
KPI （目標・指標）	児童生徒に実施したアンケートで「給食がおいしい」と答える割合 95%以上を継続		
事業内容	・栄養教諭等をはじめ、学校長及び教職員、保護者、調理委託業者等による栄養バランスや児童生徒の食べやすさを考えた給食献立の作成 ・栄養教諭等、調理員、学校長及び教職員、保護者による物資の選定 ・地場産物や旬のおいしい食材の給食メニューへの導入 （地元産の蛍米、小松とまと、たけのこ、千石豆など）		

【当該年度の実績、評価等】

実績	・献立調整委員会　令和７年度３回開催：５月、９月、１２月 ・物資選定委員会　令和７年度３回開催：６月、１０月、１月 ・地元産蛍米の使用：１０～２月 ・小松市産・石川県産食材の導入及び指導資料配布、給食だよりによる普及啓発：月１回以上 ・食材費高騰の折でも、給食の質を落とすことなく提供するために給食１食あたりの単価を見直し	
評価 A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず	達成度 A	評価のポイント（KPIで数値目標があるものは達成数値も記載） 〇給食はおいしいですか」というアンケートに対して「おいしい」「どちらかといえばおいしい」と肯定的に回答した児童生徒の割合（全校を対象にアンケート） 令和６年度　小学校 96%　中学校 95% 令和７年度　小学校 96%　中学校 96%
課題、次年度取組みへの改善点	アンケート結果や現場の声を生かし、よりおいしく栄養バランスの摂れた学校給食を提供できるよう、献立内容を改善するなどの取組を継続していきたい。	

点検評価票

事業名	いじめ・不登校対応事業	新規・継続	担当課
		継続	学校教育課
視点	1.こまつで遊び・学び・育む		
	2.伸ばしこぼれなく、個々の持つ可能性・能力を引き出す		
テーマ ※複数該当の場合は複数選択	⑥協働	⑳共生	
	⑯個性		
目的	いじめ・不登校・暴力行為など問題行動の解消を図る		
KPI （目標・指標）	・全校でいじめを許さない取り組みを実施 ・新規に不登校となる児童生徒を０にする		
事業内容	・スクールソーシャルワーカー（SSW）の学校訪問および事案対応 ・ステップルーム（松陽中、南部中、芦城中、丸内中）の運営		

【当該年度の実績、評価等】

実績	・SSWが定期的に各校への学校訪問を行い、学校の生徒指導の状況を把握し、その都度必要な助言を行った。また保護者懇談へも同席し、学校と保護者間との橋渡しを行った。 ・SSWの学校訪問は、ほぼ毎日。生徒に対して、いじめ防止の授業も行った。 ・ステップルームを１校増加させ（丸内中に開設）４校（芦城中、南部中、松陽中、丸内中）とし、相談室機能の充実を図るとともにステップルーム支援員も１人増加させた。	
評価 A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず	達成度 A	評価のポイント（KPIで数値目標があるものは達成数値も記載） ○中学校の不登校者数が、減少傾向にある。（R6：221人→R7：205人） ○SSWの定期的な学校訪問、管理職との懇談、各種会議や保護者面談の同席により学校で発生するトラブルの未然防止や早期解決、対応策決定に大きく貢献している。 ○各学校のいじめの積極的な認知も進んだ。（R6：126件→R7：193件） ○「学校が楽しい」と答える児童生徒の割合（Ａ＋Ｂ）が90%以上を継続
課題、次年度取組みへの改善点	・発達や情緒、家庭の問題など、複雑化する様々な要因による不登校児童生徒数が増加しており、さらなる対応策が必要である。 ・様々ないじめ案件に対し、早期対策や認知意識の向上が必要であるとともに、学校の未然防止策や初期対応力のさらなる向上が求められる。	

点検評価票

事業名	キャリア教育推進事業	新規・継続	担当課
		継続	学校教育課
視点	1.こまつで遊び・学び・育む		
	5.新たな学び・新たなスキルでウェルビーイングを向上		
テーマ ※複数該当の場合は複数選択	⑬キャリア	⑤可能性	
	⑩人材育成		
目的	・勤労観を身に付け、自分の将来を見つめながら、集団や社会の中で、主体的に自己を生かそうとする態度や能力を育む ・各学年段階におけるキャリア教育の実施、キャリアパスポートの活用		
KPI （目標・指標）	児童生徒の職業観やライフプランニング能力の充実を図る		
事業内容	・地域や学校の状況に応じた様々な職場での体験活動 ・職業調べ、職業講話等の職業学習の実施		

【当該年度の実績、評価等】

実績	・各校、職場体験、職業人・企業等を招いて語る会や職業講話を実施することにより、地域企業への理解や働く意義、自分の将来について考える機会となった。各学校において学年を系統だててカリキュラムを編成した。 ・R7年度、各小中学校でふるさと小松学習の取組を開始した。総合的な学習の時間を用いて、郷土の伝統や産業について学び、児童生徒のキャリア学習の充実や伝統文化の良さの再認識を図った。	
評価 A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず	達成度 B	評価のポイント（KPIで数値目標があるものは達成数値も記載） ○各学校の実情に応じた職業学習の実施は、望ましい職業観・勤労観や自己実現を図ろうとする態度を育み、また自分の将来に向けて深く考えることのできるよい機会となった。 ○地域企業と連携してのキャリア教育も進んできている。 （R7年度は教職員向けにCKD株式会社で研修会を実施）
課題、次年度取組みへの改善点	・職場体験活動の在り方の見直し（受入企業が減少傾向。職場体験から職場見学など実施形態の変化） ・より目的を明確にした職場体験学習の実施 ・地域企業との連携の更なる推進（小松商工会議所や小松青年会議所との連携）	

点検評価票

事業名	子供歌舞伎「勧進帳」上演事業	新規・継続	担当課
		継続	生涯学習課
視点	１．こまつで遊び・学び・育む		
テーマ ※複数該当の場合は複数選択	①体験	④郷土愛	
	⑦主体性		
目的	子供歌舞伎「勧進帳」の上演を通して、子どもたちの主体性や協調性を育むとともに、地域の歴史文化への理解を深める		
KPI （目標・指標）	日本こども歌舞伎まつりin小松での子供歌舞伎「勧進帳」の上演		
事業内容	第26回日本こども歌舞伎まつりin小松での子供歌舞伎「勧進帳」の上演 第27回上演に向けた準備（役者募集、稽古、その他準備等）		

【当該年度の実績、評価等】

実績	１．第26回日本こども歌舞伎まつりin小松（上演） ・リハーサル　令和７年５月３日（土） ・本番　令和７年５月４日（日）・５日（月祝） ２．第27回日本こども歌舞伎まつりin小松（上演に向けた準備） ・出演者募集　令和７年10月23日（木）～ ・役者選考会　令和７年11月29日（日） 応募者：16人（小学生） ・上演結団式　令和７年12月14日（日） 出演者：役者17人、長唄・囃子方25人 ・稽古　令和７年12月20日（土）から令和８年３月	
評価 A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず	達成度 A	評価のポイント（KPIで数値目標があるものは達成数値も記載） ○第26回は、２日間の上演を無事に終えることができた。 ○第27回に向けては、役者の必要人数を確保し、上演に向けた稽古や準備を進めることができた。
課題、次年度取組みへの改善点	令和８年５月開催の「日本こども歌舞伎まつりin小松」が大千穐楽となるため、令和８年度を持って事業終結となる。	

点検評価票

事業名	青少年交流事業	新規・継続	担当課
		継続	生涯学習課
視点	1.こまつで遊び・学び・育む		
	2.伸ばしこぼれなく、個々の持つ可能性・能力を引き出す		
テーマ ※複数該当の場合は複数選択	④郷土愛	⑩人材育成	
	⑧国際性	⑫外国語・留学	
目的	市内の小中学生による国内国外都市等との青少年交流事業を実施し、相互理解と健全育成を図る。また海外からの留学生の受入れを行う		
KPI （目標・指標）	＜目標＞交流都市との青少年交流を通じて、さまざまな体験活動の機会や学習の場を供し、相互理解と友好を促進するとともに、幅広い視野と主体性を兼ね持つ人材を育成する ＜指標＞派遣・受け入れの実施		
事業内容	・【国内】姉妹都市の小学生との相互交流（派遣・受入れ） ・【国外】交流都市等への中・高校生等の交流（派遣・受入れ） ・【その他】留学生やホームステイの受け入れ促進（補助金交付）		

【当該年度の実績、評価等】

実績	1．高知県宿毛市（姉妹都市）児童との交流 令和７年８月５日（火）～８日（金） 宿毛市の派遣団（児童８人＋引率３人）が本市を訪問 木場小学校５・６年生との交流会を開催 日時：令和７年８月６日（水） 会場：小松サン・アビリティーズ 内容：宿毛市児童による、宿毛市の紹介 木場小５年生による、学校紹介 木場小６年生による、木場潟環境学習の発表 レクリエーション 2．ホームステイ支援事業について パナマからの留学生　１人（高校生） 期間：令和７年３月22日（土）～令和７年８月13日（水） 3．21世紀石川少年の翼への参加 韓国全北特別自治道への派遣　１人（御幸中学３年生） 期間：令和７年７月25日（金）～30日（水）	
評価 A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず	達成度 B	評価のポイント（KPIで数値目標があるものは達成数値も記載） ○姉妹都市や交流都市との青少年交流を通じて、さまざまな体験活動の機会や学習の場を供し、相互理解と友好を促進することができた。 ○また留学生は日本の生活習慣や伝統行事、文化に触れ、同学年との異文化交流により相互理解を深めた。
課題、次年度取組みへの改善点	今後も国内国外都市等との青少年交流事業を実施し、相互理解と健全育成を図っていく。	

点検評価票

事業名	読書活動の推進（利用サービス）	新規・継続	担当課
		継続	空とこども絵本館
視点	1．こまつで遊び・学び・育む		
テーマ ※複数該当の場合は複数選択	①体験	③国語力	
	㉓生涯学習	㉔全世代	
目的	絵本の楽しさを伝え、読書体験を通じて言葉の豊かさや想像力を育む		
KPI （目標・指標）	＜目標＞生涯読書の推進 ＜指標＞貸出人数・冊数 《令和７年度》　　《令和11年度》 【絵本館】　0.8万人・4.8万冊　＝＝⇒　0.85万人・５万冊		
事業内容	絵本に特化した図書館として、０歳からの絵本との出会いを推進し、子どもたちが豊かな心と想像力を育めるよう、充実した読書環境を提供して乳幼児期からの読書活動の活性化を図る。		

【当該年度の実績、評価等】

実績

	R7年度	R6年度	対前年度差分	対前年度伸び率
入館者数（人）	19,653	18,790	863	4.6%
貸出者数（人）	8,059	7,700	359	4.7%
貸出冊数（冊）	47,615	45,296	2,319	5.1%

評価

A 十分達成
B おおむね達成
C やや不十分
D 達成できず

達成度	評価のポイント（KPIで数値目標があるものは達成数値も記載）
A	○毎月のテーマ展示における絵本の選定や、時期に合わせた特設コーナーの設置など、利用者が気軽に手に取りたくなる環境づくりを工夫した。

課題、次年度取組みへの改善点

今後も多様なテーマで展示を行い、絵本との出会いが子どもの新たな関心を惹きつけるきっかけとなるよう努めていく。

定期的な利用者以外の、来館機会が少ない子どもや保護者層へ届ける効果的な周知手法の確立が課題である。SNSなどを活用した情報発信にも取り組み、幅広い層へのアプローチを目指したい。

点検評価票

事業名	読書活動の推進（おはなし会やその他イベント）	新規・継続	担当課
		継続	空とこども絵本館
視点	1．こまつで遊び・学び・育む		
テーマ ※複数該当の場合は複数選択	①体験	③国語力	
	㉓生涯学習	㉔全世代	
目的	絵本の楽しさを伝え、読書体験を通じて言葉の豊かさや想像力を育む		
KPI （目標・指標）	＜目標＞生涯読書の推進 ＜指標＞貸出人数・冊数 《令和７年度》 ＝＝＝⇒ 《令和11年度》 【絵本館】 0.8万人・4.8万冊 ＝＝＝⇒ 0.85万人・５万冊		
事業内容	・おはなし会や絵本に関連するイベント等を通じて、絵本に親しみ、絵本の魅力を伝え、その後の読書活動へとつなげるため事業を実施する。 おはなし会、出張絵本館、よんでよんで、講演会、その他各種イベント		

【当該年度の実績、評価等】

実績

のべ参加者数 / おはなし会・その他	R7年度（人）	R6年度（人）	対前年度差分	対前年度伸び率
日曜あさのおはなし会（3歳以上、毎月第1日曜日）	398	308	90	29.2%
ぴよぴよおはなし会（0～2歳、毎月第3金曜日）	358	288	70	24.3%
おはなし２３（3歳以上、毎月23日※22日の場合あり）	293	292	1	0.3%
よんで よんで（毎月23日※22日の場合あり）	746	670	76	11.3%
出張絵本館（毎月第2･4木曜日）	838	979	-141	-14.4%
その他イベント合計	707	549	158	28.8%

評価

達成度	評価のポイント（KPIで数値目標があるものは達成数値も記載）
A	○定例のおはなし会などの開催日に合わせて来館される方も多く、絵本を読む楽しさを共有することができた。 ○その他のイベントでも内容に関連した絵本の読み聞かせや紹介を行い、読書への興味を促した。 △出張絵本館は日程の都合により実施できなかった施設があり参加者数が減少した。

A 十分達成
B おおむね達成
C やや不十分
D 達成できず

課題、次年度取組みへの改善点

参加対象者の発達段階に応じた効果的なアプローチを行うため、各事業において多種多様なプログラムを継続的に展開していく。

点検評価票

事業名	学校評価システム	新規・継続	担当課
		継続	学校教育課
視点	２.伸ばしこぼれなく、個々の持つ可能性・能力を引き出す		
テーマ ※複数該当の場合は複数選択	⑰専門性		
目的	各学校が目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図る		
KPI （目標・指標）	全校における学校評価システムの実施・検証・改善の充実		
事業内容	学校評価システム ・学校運営の組織、学力向上、授業改善の明確化 ・客観的に現状を分析する学校評価（学校評価１）の作成 ・人材育成のための学校評価（学校評価２）の作成 ・児童生徒、保護者、教職員アンケートの実施		

【当該年度の実績、評価等】

実績	・全ての学校で、小松市の重点目標を踏まえた校長ビジョンの具現化のための学校評価が作成され、定期的に評価・改善を行った。 ・評価項目については、学校独自の項目だけでなく市統一の項目も設定し、市の平均と比較できるようにした。 ・学校のホームページへの掲載や「学校だより」により、学校の取組内容が周知された。 ・児童生徒、保護者、教職員アンケートを実施し、改善点を明確にすることができた。	
評価 A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず	達成度	評価のポイント（KPIで数値目標があるものは達成数値も記載）
	B	○学校が重点的に取り組んだ取組について、児童生徒及び保護者、教職員アンケートを評価・改善に生かすことができた。 ○学校関係者評価を通じて、保護者や地域住民等が学校運営について意見交換することで、よりよい改善策を生み出すことができた。
課題、次年度取組みへの改善点	引き続き、学校評価計画や重点項目を広く地域住民等に周知し、「教員の自己評価」と「児童生徒・保護者からの客観評価」に差がある項目や肯定的回答が低かった項目等について、「なぜその数値になったのか」の要因を分析し、次年度の学校経営計画に落とし込み、組織的・継続的な改善が必要。	

点検評価票

事業名	学校研究支援事業	新規・継続	担当課
		継続	学校教育課
視点	2.伸ばしこぼれなく、個々の持つ可能性・能力を引き出す		
テーマ ※複数該当の場合は複数選択	⑰専門性	⑳共生	
目的	日々の授業改善による、児童生徒の学びに向かう力の育成		
KPI （目標・指標）	子供たちが学びを実感できる授業の実施・検証・改善 ・子供の実態、教科（単元）のねらい、学びのつながりを意識した単元構想 ・見取りと、見取りをもとにした教師の適切な関わり		
事業内容	・学校のニーズに応じた訪問と指導助言 ・小松市の指導の重点の周知とそれに基づいた授業づくりの伴走 ・研究指定校による小松市の目指す授業づくりの推進		

【当該年度の実績、評価等】

実績	・小松市研究指定校の授業公開（符津小、向本折小、芦城中）をした。 ・学力向上と授業改善の一体的な充実に向けた教務主任と研究主任の連携推進をした。また、研修会や協議シートを活用した対話の促進を図った。 ・小松市の指導の重点をもとに、「教師の指導性」についての共通理解を図った。 ・効果的な教師の関わりやそれによる児童生徒の学びに向かう姿の具体を、実際の授業指導案とともに公開した。	
評価 A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず	達成度 B	評価のポイント（KPIで数値目標があるものは達成数値も記載） ○各学校で授業づくりを単元のまとまりでとらえる取組が見られた。 △他者との協働や対話を通じて自らの考えを広げ深めるような交流の質の向上（小学校） △自ら思考を働かせ行動する場面を意図的に設定した子供主体の授業への転換（中学校）
課題、次年度取組みへの改善点	・授業改善に向けた教師の見取りと手立ての充実を図る。 ・デジタル学習基盤の効果的な活用による、主体的・対話的で深い学びの一層の充実を図る。	

点検評価票

事業名	学力向上事業	新規・継続	担当課
		継続	学校教育課
視点	２.伸ばしこぼれなく、個々の持つ可能性・能力を引き出す		
テーマ ※複数該当の場合は複数選択	⑨デジタル	⑰専門性	
目的	教師の授業改善や指導力向上による、児童生徒の確かな学力の向上		
KPI （目標・指標）	未来の創り手となるために必要な資質・能力の確実な育成 「教科の内容がわかる」児童生徒の割合　R7：84%→R11：95%		
事業内容	学力向上事業 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ・教師力向上専門指導員の派遣		

【当該年度の実績、評価等】

実績	・各校の学校研究に沿ったそれぞれの授業に対し、市「指導の重点」に基づいた指導助言を行うことができた。 ・教師力向上専門指導員（８名）による学校訪問を年間を通じて行い、授業づくりや集団づくりへの指導・助言を行った。 ・教務主任と研究主任が連携し、学力向上を推進できるよう研修を開催した。	
評価 A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず	達成度 B	評価のポイント（KPIで数値目標があるものは達成数値も記載） ○子供たちに確かな資質・能力を育成するために、各学校が学力向上に向けて検証を行い、改善を図った。 ○主任指導主事の指導助言により、若手教員の授業力向上が見られた。
課題、次年度取組みへの改善点	・授業で子供たちの確かな資質・能力を育成するために、「デジタル学習基盤を効果的に活用した主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善がより一層求められる。 ・特に中学校において、自ら思考を働かせ行動する場面を意図的に設定した子供主体の授業づくりが必要である。	

点検評価票

事業名	英語教育推進事業	新規・継続	担当課
		継続	学校教育課
視点	２.伸ばしこぼれなく、個々の持つ可能性・能力を引き出す		
テーマ ※複数該当の場合は複数選択	⑧国際性	⑤可能性	
目的	児童生徒のコミュニケーション能力の育成と教師の指導力向上を図る		
KPI （目標・指標）	英語が好きな児童・生徒の割合　R7：60％ → R11：70％		
事業内容	・外国語担当者会の実施 ・市内小学校へのイングリッシュサポーター（ES）派遣 ・市内中学校・義務教育学校へのALT派遣 ・英語検定受検料助成 ・英語賞の授与		

【当該年度の実績、評価等】

実績	・５月に外国語担当者会を実施した。 ・市内小学校へESを派遣した。希望のあった学校へは、ALTの派遣も行った。 ・市内中学校・義務教育学校へALTを派遣した。 ・中学校２・３年生を対象に、年１回英語検定料を助成した。 ・中学校３年生を対象に、英検２級以上を取得した生徒へ英語賞を、準２級以上取得した生徒に奨励賞を授与した。市立高等学校３年生の生徒には、２級以上を取得した生徒へ奨励賞を授与した。	
評価 A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず	達成度 B	評価のポイント（KPIで数値目標があるものは達成数値も記載） ○外国語担当者会を実施したことで、小中学校での授業づくりについて教員が学ぶよい機会となった。 ○英検の検定料を助成したことにより、より上の級に挑戦する生徒の数が増加し英語賞を授与した生徒数の増加につながった。
課題、次年度取組みへの改善点	・来日時のオリエンテーションや定期的に開催しているミーティング等を通じて、ALTの役割や英語科教員との連携の在り方等について、より一層ALTと共通理解をすることで、児童生徒のコミュニケーション能力の育成を図る。 ・学校の取組状況を継続的に把握し、好事例の共有・発信により、実践の横展開を推進する。	

点検評価票

事業名	英語力・コミュニケーション能力の育成	新規・継続	担当課
		継続	小松市立高校
視点	２.伸ばしこぼれなく、個々の持つ可能性・能力を引き出す		
テーマ ※複数該当の場合は複数選択	⑩人材育成	⑫外国語・留学	
目的	グローバル社会に対応できる自己発信力を高めるため、英語コミュニケーション能力の向上を目指す		
KPI （目標・指標）	実用英語技能検定の受検を通して、２年次修了までに CEFR　A2レベル（英検準２級相当）以上の生徒が100名以上 Ａ 100名以上 ／ Ｂ 80名以上 ／ Ｃ 60名以上 ／ Ｄ 60名未満 ※　KPIの見直し…R6：3年次修了までにA2レベル以上60％以上		
事業内容	目標到達に向けて、継続的かつ段階的な取組を行う。 １年次から個別最適かつ継続的な英単語の記憶定着学習に取り組み、全員が英検を受検し、２年次には上位級取得、スコアアップへとつなげていく。		

【当該年度の実績、評価等】

実績	・１、２年生全員が英検を受検した。 ・AIを活用した記憶定着学習アプリにより、個別最適かつ継続的に英単語の記憶定着に取り組んだ。 ・12月に125名が受検したGTECでは、A2レベル以上の生徒が87名であった。第２回英検で準２級以上に合格した生徒５名を追加するとA2レベルは92名となった。 ・なお、２年生の第１回、第２回の英検合格者は２級５名、準２級プラス１名、準２級28名であった。 ・令和７年度の台湾への修学旅行は、現地の高校生等と英語で交流を図るなどコミュニケーション能力と国際文化への関心や理解を高める機会となった。	
評価 A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず	達成度 B	評価のポイント（KPIで数値目標があるものは達成数値も記載） △CEFR　A2レベル以上　92名　→　B ※KPIの見直し R6：3年次修了までにA2レベル以上60％以上　R6＝96/145人(3年) ＝66.2％「A」
課題、次年度取組みへの改善点	・引き続き、１・２年生全員が英検を受検し、英語のスキルアップを行う。 ・また、生徒の進路実現に際しても、英語の資格が有利に働くように指導していきたい。 ・次年度も台湾への修学旅行を予定しているほか、米スティーブンソン校の来校も 予定しており、英語での交流を図り、コミュニケーション能力や国際文化への関心や 理解を高める機会としたい。	

点検評価票

事業名	積極的な地域貢献活動への取り組み	新規・継続	担当課
		新規	小松市立高校
視点	2.伸ばしこぼれなく、個々の持つ可能性・能力を引き出す		
	1.こまつで遊び・学び・育む		
テーマ ※複数該当の場合は複数選択	⑩人材育成		
目的	部活動や芸術コースによる地域貢献活動を積極的に行い、小松市民に愛される学校を目指す		
KPI （目標・指標）	・部活動によるボランティア活動等の年間実施回数（延べ）が35回以上 A　35回以上／B　30回以上／C　20回以上／D　20回未満 ・芸術コースの体験入学参加生徒数（中学３年生）が60名以上 A　60名以上／B　50名以上／C　40名以上／D　40名未満		
事業内容	・部活動や芸術コースによる地域貢献活動を通して、市民に愛される学校を目指す。 ・また、生徒の主体性や自己肯定感を高めるとともに、本校並びに芸術コースの魅力を発信していく。		

【当該年度の実績、評価等】

実績	・イチコーこどもまつりをはじめ、運動部・文化部とも多くの部活動が、積極的に地域貢献活動に取り組み、目標に到達した。 ＜主な地域貢献活動＞ イチコーこどもまつり、サッカー・野球指導、地域イベント等でのダンス発表・吹奏楽演奏等、小学校美術授業での指導　等 ・芸術コースの体験入学参加生徒数は、音楽29名、美術25名の計54名と、昨年度53名とほぼ同数であったが、体験入学の開催を日曜にしたことから、多くの保護者にも参加いただき、参加生徒とともに芸術コースの魅力を知ってもらうことができた。	
評価 A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず	達成度 B	評価のポイント（KPIで数値目標があるものは達成数値も記載） ○地域貢献活動　49回／年　→　A △芸術コース体験入学者数　54名　→　B
課題、次年度取組みへの改善点	・部活動の地域貢献については、生徒の主体性や自己肯定感を高めることにもつながっており、引き続き積極的に取り組んでいきたい。 ・芸術コース体験入学については、A評価に至らなかったが、今後も本校専攻生による出身中学校訪問や部活動指導、地域貢献活動等を積極的に行い、参加生徒数の増加につなげていきたい。	

点検評価票

事業名	教育環境の改善及び整備	新規・継続	担当課
		継続	教育庶務課
視点	３.時代に即した持続可能な学校教育環境を整備		
	２.伸ばしこぼれなく、個々の持つ可能性・能力を引き出す		
テーマ ※複数該当の場合は複数選択	⑲最適化		
目的	児童生徒が安全・安心で快適に学習できる環境を確保するとともに、多様な教育活動に対応した教育環境の改善及び整備を図る		
KPI （目標・指標）	安全で安心な教育環境の推進 ・学校要望を踏まえた環境改善を毎年全校で実施		
事業内容	・校舎の維持管理及び修繕 ・附帯設備等の修繕及び更新		

【当該年度の実績、評価等】

実績	＜小学校＞ ・小学校校舎等営繕費執行額　　46,103千円（執行率99.76%） ・安全・安心な学校づくり費執行額　19,747千円（執行率98.74%） （主な内容） 小松市立東陵小学校　防火シャッター取替工事 小松市立小学校遊具整備工事（今江小、矢田野小、東陵小） ＜中学校＞ ・中学校校舎等営繕費執行額　　26,022千円（執行率99.28%） ・安全・安心な学校づくり費執行額　8,917千円（執行率99.08%） （主な内容） 小松市立国府中学校吸収冷温水発生機改修工事 小松市立御幸中学校グラウンド補修工事	
評価 A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず	達成度 A	評価のポイント（KPIで数値目標があるものは達成数値も記載） ○学校からの施設修繕要望等に迅速かつ適切に対応し、児童生徒が安全・安心に学習できる環境の確保を図ることができた。 ○落雷対応や特別支援学級の整備等に適切に対応し、学校運営に支障を生じさせることなく実施することができた。
課題、次年度取組みへの改善点	学校施設・設備の老朽化が進行していることから、学校要望や施設点検結果を踏まえた計画的な修繕・更新を進め、安全・安心な教育環境の維持・向上を図る。	

点検評価票

事業名	学校施設のリニューアル （小中学校校舎等改修費）	新規・継続	担当課
		継続	教育庶務課
視点	３.時代に即した持続可能な学校教育環境を整備		
	２.伸ばしこぼれなく、個々の持つ可能性・能力を引き出す		
テーマ ※複数該当の場合は複数選択	⑲最適化		
目的	老朽化した学校施設の改修や空調復旧工事等を実施することで、教育環境の機能向上を図る		
KPI （目標・指標）	新しい教育や社会の変化に対応した施設整備 ・新しい教育内容や社会のニーズに沿った施設改修 ・国庫補助の活用と、計画的な実施による事業コストの平準化		
事業内容	・大規模改修事業 ・空調復旧事業 ・プール改修事業 ・グラウンド改修事業		

【当該年度の実績、評価等】

実績	＜小学校＞ ・空調復旧工事（国府小、木場小（２ヵ年工事の１年目））能美小（２ヵ年工事の２年目）） ・空調復旧工事実施設計（月津小、犬丸小） ・校舎改修工事（木場小） ＜中学校＞ ・体育館外壁改修工事（板津中）	
評価 A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず	達成度	評価のポイント（KPIで数値目標があるものは達成数値も記載）
	A	○工事期間中において重大な事故や災害、学校運営への大きな支障を生じさせることなく、安全かつ円滑に事業を実施した。
課題、次年度取組みへの改善点	・松陽中学校、稚松小学校における大規模施設整備の実施。 ・体育館空調整備に対するニーズが高まる中、学校施設の老朽化対策や長寿命化改修など、今後も多くの施設整備需要が見込まれる。 このため、学校の配置最適化計画との整合を図りながら、将来的な施設需要を見据えた効率的かつ計画的な施設整備のあり方について検討し、整備計画の見直しを進める必要がある。	

点検評価票

事業名	外国人児童生徒日本語初期指導	新規・継続	担当課
		継続	学校教育課
視点	３．時代に即した持続可能な学校教育環境を整備		
テーマ ※複数該当の場合は複数選択	⑧国際性	⑳共生	
目的	外国につながる児童生徒への適切な指導・支援		
KPI （目標・指標）	日本語指導が必要な児童生徒への日本語指導・支援の充実・検証・改善		
事業内容	・外国につながる児童生徒の受入れ体制整備 ・日本語初期指導教室での指導 ・日本語通級指導教室での指導 ・日本語支援員、通訳講師の派遣 ・在籍校連絡協議会の開催 ・日本語通級指導教室担当者会の開催		

【当該年度の実績、評価等】

実績	・日本語通級指導教室（芦城小学校…児童15人　教員1人・第一小学校…児童22人　教員1人）にて、日本語指導が必要な児童に対して個別の支援を行った。 ・日本語初期指導教室（稚松小学校内…児童13人　教員1人、母語指導者1人　室長1人）にて、初来日で日本語が理解できない児童に対して日本語初期指導や日本の学校への適応指導を行った。 ・日本語通級教室設置校以外に在籍している日本語指導が必要な児童生徒に対しては、日本語支援員を派遣して支援を行った。 ・保護者に対する通訳・翻訳支援を行った。 ・日本語指導に関する研修会を実施した。	
評価 A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず	達成度 A	評価のポイント（KPIで数値目標があるものは達成数値も記載） ○在籍校連絡協議会において、各校の担当教員と日本語支援員が共に出席したことにより、対象児童生徒への支援内容について共通理解のもと指導・支援を行うことができた。 ○新就学児の保護者へ、窓口や就学相談等で初期指導について案内したことで、就学後の日本語指導へとつなぐことができた。
課題、次年度取組みへの改善点	日本語通級指導教室での具体的な指導の在り方について学ぶ機会の一層の充実を図っていくとともに、在籍学級での日本語指導が必要な児童生徒への支援や指導についてデジタル学習基盤の活用等も視野に入れていくことを検討する。	

点検評価票

事業名	ＩＣＴ教育環境推進事業	新規・継続	担当課
		継続	教育研究センター
視点	３.時代に即した持続可能な学校教育環境を整備		
テーマ ※複数該当の場合は複数選択	⑨デジタル	⑲最適化	
目的	ICT環境の最適な整備をとおして、実効性ある学校DXを実現する		
KPI （目標・指標）	クラウド活用を前提とした持続可能なICT環境の整備		
事業内容	デジタル学習基盤を効果的に活用した授業モデルの創出 ゼロトラスト環境への計画的な移行		

【当該年度の実績、評価等】

実績	・学習用端末として、Chromebook　8,800台を更新配備した。 ・小学４年～中学３年に対しAI型学習ドリルを導入し、授業や家庭学習で活用が広がってきている。 ・採点や集計負担の軽減等のため、自動採点支援システム「百問繚乱」を導入した。 ・SKYMENU Cloudを導入することで、授業での学習用端末の活用を促進するとともに、クラウドを利用することで教室と家庭の学びを繋げることができた。 ・校務の効率化のため、校務用ネットワークの無線化を行った。	
評価 A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず	達成度 A	評価のポイント（KPIで数値目標があるものは達成数値も記載） ○各校でのICT環境整備を計画的に進めることができた。 ○AI型学習ドリルを利用することで、児童生徒の７割以上から、学んだことが身につくと感じるとの回答を得られた。 ○ICT機器の無線化やクラウド化が進んだことにより、授業改善や校務の効率化を図ることができた。
課題、次年度取組みへの改善点	・デジタル学習基盤を生かした学びの充実や学校DXの推進に資するICT環境の整備を行う（校務・学習の２つのネットワークの統合、ゼロトラスト化）。 ・大型提示装置（電子黒板）を計画的に配備する。 ・無線アクセスポイントや仮想サーバーの更新を行い、学校の教育ネットワークの通信状況の安定化を図る。 ・文科省の教育情報セキュリティポリシーのガイドラインの見直しやゼロトラスト化を見据えた小松市教育情報セキュリティポリシーの改訂。 ・AI型学習ドリルの見直し・検討を行うため、プロポーザルを実施。	

点検評価票

事業名	学校開放推進事業	新規・継続	担当課
		新規	生涯学習課
視点	３.時代に即した持続可能な学校教育環境を整備		
テーマ ※複数該当の場合は複数選択	㉑サポート	㉒活性化	
	㉓生涯学習		
目的	青少年のスポーツの場及び地域住民のスポーツ・レクリエーションの場として、小中学校の体育施設を地域に開放し、住民の交流促進や健康増進を図る		
KPI （目標・指標）	＜目標＞ ・学校・管理指導員と連携した、適切な開放 ・部活動の地域展開を踏まえた施設利用状況の可視化および予約手続きの一元化		
事業内容	・学校、地域、団体等と連携のもと、デジタルキーボックスを活用した、学校体育施設の安全、安心な利用促進 ・管理指導員の選任及び説明会等の実施		

【当該年度の実績、評価等】

実績	・学校体育施設の開放　32校206団体（R6:32校212団体） ・管理指導員説明会の開催　２回（うち、１回は部活動の地域展開の推進に伴う運用変更のため）	
評価 A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず	達成度	評価のポイント（KPIで数値目標があるものは達成数値も記載）
	B	○令和６年度末に導入した、デジタルキーボックスについては、管理指導員・利用者の協力・理解を得ながら、概ね円滑に運用できた。
課題、次年度取組みへの改善点	部活動の地域展開を踏まえた施設利用状況の可視化および予約手続きの一元化に向けた予約管理システムの導入	

点検評価票

事業名	学校及び家庭との連携を目指した教育相談体制づくり事業	新規・継続	担当課
		継続	教育研究センター
視点	4.幼児教育から大学教育までの一貫教育で学びをアップグレード		
テーマ ※複数該当の場合は複数選択	②連続性	⑦主体性	
目的	学校と家庭との連携のもと、支援が必要な児童生徒の情報を共有し支援策を協議するなど、児童生徒への支援体制を構築する		
KPI （目標・指標）	＜目標＞ 豊かな心の育成及び社会的自立に向けた適時適切な支援 実施→検証→改善		
事業内容	学校及び家庭との連携を目指した教育相談体制及び居場所づくり		

【当該年度の実績、評価等】

実績	・教育相談、ふれあい教室、訪問相談の３部門の職員が参加するリーダー会や合同ミーティングを定期的に開催し、情報共有を行った。 ・支援が必要な児童生徒について、保護者の思いや悩みを聴き、児童生徒の困難さを適切に把握したうえで、学校や家庭での支援体制について話し合った。 ・学校主催の教育事例検討会や土曜専門相談等において、小児科医や臨床心理士等の専門家や他機関とも連携しながら、校内の相談体制や児童生徒の支援策について話し合った。 ・教育相談のべ回数（4,438件） 来所相談（1,739件）　電話相談（1,846件）　訪問相談（853件） ・教育相談リーフレットの作成の検討 ・教育相談親の会（不登校等の児童生徒をもつ保護者） ・事例検討会の開催	
評価 A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず	達成度 A	評価のポイント（KPIで数値目標があるものは達成数値も記載） ○授業参観や学校主催のケース会議への参加など、学校と連携を深めることで、児童生徒へ適切な支援を行うことが出来た。 ○相談３部門の情報を共有することで、多面的・多角的な支援策を講じることができた。 ○学校や他の専門機関と情報を共有し、福祉や医療分野からも支援を受けることができた。
課題、次年度取組みへの改善点	・教育相談・ふれあい教室の存在及び場所について、学校や保護者への周知を工夫し理解を広げたい。 ・保護者や学校が活用しやすく教育相談体制全体がわかるリーフレットを作成中であり、教育と福祉との連携も視野に入れて検討している。 ・より学校とのつながりを生かした支援策となるよう、連携の方法やタイミングを整理・分析したい。	

点検評価票

事業名	学校とひとともものづくり科学館、教育研究センターの連携（教育施設としての活用）	新規・継続	担当課
		継続	ひとともものづくり科学館
視点	4.幼児教育から大学教育までの一貫教育で学びをアップグレード		
	1.こまつで遊び・学び・育む		
テーマ ※複数該当の場合は複数選択	⑩人材育成	⑥協働	
	⑤可能性		
目的	幼児、児童、生徒の理科への興味関心の向上と学校における科学的教育環境の充実		
KPI （目標・指標）	・教育研究センターとの連携を通じ、市内小学校におけるプログラミング教育の充実と実践研究を進める。 ・高校・大学等との連携や小中高校生が学びあう場の提供を通じ、科学館を活用した探究活動の推進を図る。		
事業内容	・市内小学生のロボットプログラミング教育の推進・研究 ・高校・大学等と連携した探究活動や課題研究発表会等の実施 ・小中高生が集う学びあいの場の提供 ・ステップルーム生徒(不登校傾向)の受け入れ ・小中学校の理科教員への教材研究・実験・プログラミング教育等に関する支援		

【当該年度の実績、評価等】

実績	６・７月　小松市理科部会小学校部会教材作成・実験に関する協議会 ７月・９月　小松工業生によるAIを使ったロボット教室の実施 ８月　小松高校との連携による小学生向けプログラミング教室の実施 ９～２月　市内小学４年生対象のプログラミング教室の実施 10月　小松市理科部会中学校部会教材研究 10月　どんどんまつり協力イベントにて、４高校、１大学の参加 11～12月　小松高校との連携による小学生向けプログラミング教室の実施 12～２月　小中高生が集い学びあうプログラミングcaféの計画・立案 小松高校・公立小松大学に連携依頼 ３月　スーパーサイエンスハイスクール（SSH）課題研究発表会実施 ３月　Pythonプログラミング教室発表会実施 ３月　プログラミングcaféについて公立小松大学藤原助教と打合わせ ※ステップルーム生徒(不登校傾向)受入については、要望がなかった。	
評価 A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず	達成度 A	評価のポイント(KPIで数値目標があるものは達成数値も記載) ○高校と連携した体験教室や探究活動に新たに４校の高校に協力していただいた。 ○課題研究発表会では400名を超える参加者があった。 ○小中高生が学びあう場の提供に向け、高校・大学との連携を進めた。
課題、次年度取組みへの改善点	・今年度の高校との連携を踏まえ、さらに連携を増やして行きたい。 ・公立小松大学との連携はスモールスタートで徐々に広げて行きたい。 ・新学習指導要領を見据え、小学校プログラミング教育に関する研究を進める必要がある。	

点検評価票

事業名	研究、研修事業	新規・継続	担当課
		継続	教育研究センター
視点	５．新たな学び・新たなスキルでウェルビーイングを向上		
テーマ ※複数該当の場合は複数選択	⑩人材育成	⑰専門性	
目的	教師自身が主体的に学び続け、教育実践を創造できる資質・能力の育成		
KPI （目標・指標）	＜目標＞ ・情報活用能力の育成及びデジタル学習基盤の効果的な活用 ・適切な見取りと、それを活かした指導・支援 ＜指標＞ 研究会、研修会参加者の満足度100％		
事業内容	・教科研究会を通して、教師同士が繋がりながら教科の見方・考え方を育成する実践事例を創出する。 ・深い学びの実現、自治的な集団作り、的確な児童生徒理解等について、専門的な見地から学ぶための研修を実施する。		

【当該年度の実績、評価等】

実績	・授業デザイン開発チーム 小学校国語科（福井大学 准教授　萩中 奈穂美 氏） 小学校算数科（教師力向上専門指導員　松浦 博臣 氏） 中学校社会科（教師力向上専門指導員　川村 仁 氏） 中学校英語科（金沢大学 教授　滝沢 雄一 氏） ・児童生徒理解講座（7.28　星槎大学大学院 教授　阿部 利彦 氏） ・夏季教職員研修 特別活動（7.31　帝京大学 教授　安部 恭子 氏） 授業改善（8.5　英語わくわく授業研究所　代表　中嶋 洋一 氏） 情報活用能力の育成（8.18　放送大学 教授　中川 一史 氏）	
評価 A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず	達成度 A	評価のポイント（KPIで数値目標があるものは達成数値も記載） ○教員アンケートによる肯定的な回答（大変満足した、満足した）が98％であった。
課題、次年度取組みへの改善点	・授業デザイン開発チームでは、教材研究や単元構想等の共同研究をとおして授業実践事例を開発した。研究内容を市全体に発信することで、授業改善に向けた機運を醸成するよい機会となっている。 ・夏季教職員研修についてはそれぞれ多数の教員の参加希望があり、そのアンケート結果は肯定的な回答がほとんどであった。一方、教職員全員対象の研修では、各学校のニーズに応えることの難しさもある。少しでも各学校の課題解決に繋がる研修になるよう、それぞれの実態を踏まえた研修が実施できる形に変更していく。	

点検評価票

事業名	ＩＣＴを活用した学びの推進事業	新規・継続	担当課
		継続	教育研究センター
視点	５.新たな学び・新たなスキルでウェルビーイングを向上		
テーマ ※複数該当の場合は複数選択	⑨デジタル	⑱デジタル	
目的	デジタル学習基盤を活用し、児童生徒の情報活用能力を育成する		
KPI （目標・指標）	＜目標＞未来の創り手となるために必要な資質・能力の確実な育成 ＜指標＞ICTを効果的に活用した授業の推進 ＜目標＞校務DX推進を通した教育活動の高度化 ＜指標＞GIGAスクール構想下での校務DXチェックリスト		
事業内容	・教師の学び方改革に資する校務DX推進事業 ・「授業デザイン開発チーム」による情報活用能力の育成を目指す授業実践 ・ICT活用研修会の開催 ・GIGA校内研修推進リーダー担当者会の開催 ・校務DX先導推進校による実践事例の開発 ・校務DX先導推進校による実践事例報告会の開催（全校参加）		

【当該年度の実績、評価等】

実績	・「教師の学び方改革に資する校務DX推進事業」市内３小学校・２中学校が先導推進校として校務用Teamsの活用について取り組み、市内小中義務教育学校に発信を行った。 ・先導推進校以外の学校からは、先導推進校の取組内容を高く評価すると同時に、市内全体で共有することを望む声が多く上がった。 ・「授業デザイン開発チーム」小学校国語科・算数科、中学校社会科・英語科において各教科年間７回の研修会を実施。うち、公開授業研究会において、市内学校に研究の成果を発信した。 ・各学校のGIGA研修推進リーダーの担当者会にて、放送大学 中川一史教授にオンラインにて情報活用能力を育む授業づくりについて講話いただいた。 ・ICT活用研修会として、技能習得のレベルに応じた研修の開催や学習端末として導入したChromebook及び授業支援ソフトSKYMENU Cloudの基本的操作についての研修を開催した。	
評価 A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず	達成度 B	評価のポイント（KPIで数値目標があるものは達成数値も記載） ○児童生徒の情報活用ができると思う割合（小、中）11月調査 ①学習用端末で文章が作成できる。（91.7P、90.5P） ②インターネットを使って情報収集できる。（94.1P、96.3P） ③学習用端末を使って情報を整理できる。（81.3P、79.5P） ④学習用端末を使ってプレゼンできる。（87.3P、86.4P） △文部科学省校務DXチェックリスト達成状況（458.7/930点）
課題、次年度取組みへの改善点	・デジタル活用基盤を用いることに重点を置く段階から、デジタル学習基盤の活用をとおして情報活用能力と教科の資質・能力を一体的に育成することを目指していく。 ・校務DXチェックリストに基づく校務DXを推進し、変化をしなやかに受け止める学校組織を実現する。 ・教育DX、校務DXともに学校間格差、教師間格差を解消する。	

点検評価票

事業名	生涯学習の推進	新規・継続	担当課
		継続	生涯学習課
視点	5.新たな学び・新たなスキルでウェルビーイングを向上		
テーマ ※複数該当の場合は複数選択	⑬キャリア	⑭学び直し	
	㉓生涯学習	㉔全世代	
目的	幅広い世代に学びの場を提供し、学ぶ意欲に応える		
KPI （目標・指標）	＜指標＞ ・生涯学習講座の実施（講座数、参加者数） ・生涯学習センター（芦城センター、第一地区コミュニティセンター）の利用状況		
事業内容	・市立公民館での生涯学習講座の実施 ・その他生涯学習講座の実施 ・生涯学習センターの運営		

【当該年度の実績、評価等】

実績

1．市立公民館講座（中央、稚松、芦城、国府、松東、松陽、安宅、南部、第一、板津公民館）。主に、健康増進や趣味教養に関する講座

講座数	定員合計	受講者数	充足率
107	1,485人	1,318人	88.8%

2．こまつ市民大学（４月～８月） 公立小松大学の教授らを講師に迎え、国際情勢や古典など、アカデミックなテーマを取り扱った。

講座数	定員合計	受講者数	充足率
5	170人	94人	55.3%

3．その他生涯学習講座　対話型セミナー「komatsu local edge」（３回）
働く世代（20～50代）の学習機会の拡大を目指し、地域内外で活躍する講師を招き、実践的な事例共有及び参加者との対話を通じて、キャリア形成の意識醸成を図った。

開催数	定員合計	受講者数	充足率
3回	45人	31人	68.9%

4．生涯学習センターの運営

	利用者数
芦城センター	58,347人
第一地区コミュニティセンター	65,620人

評価

A	十分達成
B	おおむね達成
C	やや不十分
D	達成できず

達成度	評価のポイント（KPIで数値目標があるものは達成数値も記載）
B	○こまつ市民大学は事業終了となったが、働く世代を対象とした学びのきっかけとなるセミナー「komatsu local edge」を新規で企画・実施した。回を追うごとに参加者が増え、多様なキャリアの可能性や地域に根ざした働き方・生き方を学ぶ機会となった。

課題、次年度取組みへの改善点

・公会堂の解体に伴い、芦城センター及び第一地区コミュニティセンターは、利用予約や問い合わせが増加した。今後、團十郎芸術劇場うららの改修もあり、さらなる利用増が見込まれる。曜日や時間帯によっては予約が集中するため、適切な受付事務により、市民が安心して利用できる施設運営に取り組む。

点検評価票

事業名	読書活動の推進	新規・継続	担当課
		継続	図書館
視点	５．新たな学び・新たなスキルでウェルビーイングを向上		
テーマ ※複数該当の場合は複数選択	①体験	③国語力	
	㉓生涯学習	㉔全世代	
目的	生涯にわたり読書に親しめる環境の整備、市民の読書活動を推進する		
KPI （目標・指標）	＜目標＞生涯読書の推進 ＜指標＞貸出人数・冊数　令和７年度数値キープ 令和７年度　令和11年度 【本館】　5.3万人・19.6万冊　５万人・19万冊 【南部】　2.0万人・ 8.1万冊　２万人・８万冊		
事業内容	読書活動の推進、図書館利用サービスの充実、図書館の安心・安全で居心地の良い環境づくり、図書館サービスの周知、学校・他施設との連携等を運営方針として、図書の貸出・購入、図書館事業（ビブリオバトル・読み聞かせ・テーマ展示等）を行う。		

【当該年度の実績、評価等】

実績

		R7年度	R6年度	対前年度差分	対前年度伸び率（P）
図書館本館	貸出者数（人）	53,084	53,396	-312	△ 0.6
	貸出冊数（冊）	196,304	204,498	-8,194	△ 4.0
	利用者満足度(%)	81.4	76.3	5.1	6.7
南部図書館	貸出者数（人）	20,186	19,529	657	3.4
	貸出冊数（冊）	80,815	77,925	2,890	3.7
	利用者満足度(%)	90.1	92.9	-2.8	△ 3.0

評価

達成度	評価のポイント（KPIで数値目標があるものは達成数値も記載）
A	○夏季開館時間の延長を行い、読書サービスの提供・充実に努めた。 ○ビブリオバトルは中学生大会と小学生大会を実施した。（中学生大会は県大会として実施し、優勝者は全国大会に出場） ○おはなし会、読み聞かせ講座、各種ワークショップ、芦城公園周辺施設と連携した音さんぽ、図書館カフェを実施した。移動図書館車事業も計画どおり実施した。 ○学校との連携（本のとびらのスタンプラリー（学校）、児童の作品展示（南部図書館）、高校生のポップ展） △貸出冊数、貸出者数共に減少となった。 ○利用者満足度は、本館が上昇。南部は昨年度に比べて下降しているが、高い満足度を維持している。

A 十分達成
B おおむね達成
C やや不十分
D 達成できず

課題、次年度取組みへの改善点

・移動図書館事業を３月に廃止。その代替えの事業の検討が必要。
・テーマ展示や読書イベント等、市民ニーズを捉えながら関係機関とも連携し、読書活動推進、図書館事業の充実を図っていきたい。
・電子申請サービスによるリクエストなどサービスをより広く周知することで、利用者サービスの向上に努めたい。

点検評価票

事業名	「楽しむ、学ぶ、挑む」サイエンスの推進	新規・継続	担当課
		継続	ひとともものづくり科学館
視点	５.新たな学び・新たなスキルでウェルビーイングを向上		
テーマ ※複数該当の場合は複数選択	⑩人材育成	⑨デジタル	
	⑭学び直し		
目的	科学体験やプログラミング教育を通じ、これからのデジタル社会に対応した質の高い科学教育の推進		
KPI （目標・指標）	・幼児から大人まで幅広い世代を対象とした科学体験教室を実施する。 ・プログラミング教育を科学館事業の柱の一つとし、これからのデジタル社会に対応した学びとして研究・開発し、推進する。		
事業内容	・年間を通した大人向け講座を実施する。 ・小中学生向け科学クラブを充実する。 ・幼児向けプログラミング教室を開発する。 ・既存のロボットプログラミング教室を体系化し、新たな教室を開発する。 ・プログラミング言語教室の新規開催と充実を目指す。 ・既存の教室を評価し、教室の改善に活用する。		

【当該年度の実績、評価等】

実績	４～３月　小学生向けヒルズ科学クラブと大人向け講座の実施 ５～３月　集まれ中学生クラブの実施 ８月　中学生向けPythonプログラミング教室の実施 11月　体験教室のアンケートを開始し、教室の改善に活用 12月　新たなロボットプログラミング教室の研究・開発と実施 12～２月　中学生向けPythonプログラミング教室の実施 １月～２月　既存のレゴプログラミング教室の見直し ※小学校低学年は前期体験者が後期も継続して体験可能な教室の増設、高学年には単発の課題解決型の教室を導入 ２月　次年度のプログラミング言語教室の計画・立案 ２月　園児向けのカリキュラムのこども園先生方対象の体験実習実施 ３月　Pythonプログラミング教室発表会の実施	
評価 A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず	達成度 A	評価のポイント（KPIで数値目標があるものは達成数値も記載） ○年間を通じ小中学生向けクラブ、大人向け講座を実施した。 ○新たなロボットプログラミング教室と幼児向け教室の開発を行った。 ○Pythonプログラミング教室を15日間開催し、そのまとめとして発表会が実施でき、好評であった。
課題、次年度取組みへの改善点	・既存の体験教室の方向性について研究していく必要がある。 ・幼児向けプログラミング教室の実践研究が必要である。 ・Pythonプログラミング教室を拡充し、継続的な実施に向けた課題整理を進める必要がある。 ・小中学生向けプログラミングクラブの実施可能性を探り、今後の実施に向けて取組を進めていきたい。	

点検評価票

事業名	総合的な探究の時間の充実による生徒の主体性・社会性の育成	新規・継続	担当課
		継続	小松市立高校
視点	5.新たな学び・新たなスキルでウェルビーイングを向上		
	1.こまつで遊び・学び・育む		
テーマ ※複数該当の場合は複数選択	⑩人材育成	⑬キャリア	
目的	総合的な探究の時間の充実を図り、生徒の主体性、情報活用能力、問題発見・解決能力や他者と協働する力、考えを伝える力を育成する		
KPI （目標・指標）	総合的な探究の時間における生徒の主体的な取り組みを通じて、生徒の表現力や自己発信力が成長したと思う（よくあてはまる・ややあてはまる）生徒・教員の割合が81%以上 A 81%～100% ／ B 61～80% ／ C 41～60% ／ D 0～40%		
事業内容	総合的な探究の時間において、フィールドワークを行い、地域や社会が抱えている課題をテーマに、課題解決に向けて、情報を収集、整理、分析し、まとめて発表することを通じて、生徒の主体性や他者と協働する力、考えを伝える力等を育成する。		

【当該年度の実績、評価等】

実績	・１年生は、市内企業を訪問するフィールドワークを実施し、社会の課題や解決策を考え話し合い、ポスター制作や発表ができた。 ・２年生は、解決すべきテーマを自分で決め、立案から実践、発表まで主体的かつ協働的に取り組むことができた。 ・校内での中間発表時には、公立小松大学生産システム科学部の廣瀬圭教授に講評と今後のアドバイスをいただいた。 ・１月には南加賀地区合同探究発表会、石川県スーパーサイエンスハイスクール（SSH）・いしかわニュースーパーハイスクール（NSH）合同発表会、３月には究める課題研究発表会に参加し、自身の成果を発表するとともに、他校の生徒の発表を聴いたり、意見交換や交流を通じて発表する力や考察する力の育成につながった。	
評価 A 十分達成 B おおむね達成 C やや不十分 D 達成できず	達成度 B	評価のポイント（KPIで数値目標があるものは達成数値も記載） △生徒　77.9% △教員　67.6% △中間、最終発表のほか、外部発表の機会も設けているが、さらに校内でのグループ発表などの機会を多く設け、表現力や発信力の育成を図る必要がある。
課題、次年度取組みへの改善点	・フィールドワークで得た情報の整理・分析や考察の場面で活発な意見交換ができるよう指導するとともに、報告会において生徒の表現力や発信力が十分に発揮できるよう指導していく。 ・生徒の発表機会を増やし、教職員の発表評価方法も工夫する必要がある。また、教員の校内研修で洗い出した改善点を基に探究活動全体を見直し、生徒の活動を活性化させたい。	

Ⅳ　令和７年度小松市教育委員会の活動状況

１　小松市教育委員会

職　　名		氏　　名	備　　考
教　　育　　長		山　本　　民　夫	
教育委員	教育長職務代理者	中　惣　　恭　子	
	委　　員	村　井　　啓　介	
	委　　員	浅　蔵　　一　華	
	委　　員	表　　幹　也	

２　教育委員会会議の実施状況

（１）開催回数

定例会議：１２回

臨時会議：　１回

（２）付議件数

区分	内　　容	件　数
議　案	規則等に関すること	１６件
	議会の議決を経るべき議案に関すること	７件
	教科用図書の採択に関すること	１件
	委員の委嘱等に関すること	３件
	その他	７件
	計	３４件
協　議		６件
報　告		４１件
その他		２４件

（３）教育委員からの意見・提言

意見・提言件数　　９件

３　総合教育会議の実施状況

平成２７年４月１日に施行された改正「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、すべての地方公共団体に総合教育会議が設置されることとなりました。本市は「小松市総合教育会議条例」を制定し、当該会議の設置を明確化しています。

（１）総合教育会議の概要

○地方公共団体の長（市長）が設置

○構成員は市長及び教育委員会（必要に応じ意見聴取者の出席を要請）

○会議は市長が招集し、原則公開

○協議・調整事項

・教育に関する大綱の策定

・教育の条件整備など重点的に講ずべき施策

・児童・生徒等の生命・身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置

○総合教育会議において調整が行われた事項については、構成員は調整結果を尊重しなければならない

（2）開催日及び討議事項

回（開催日）	討　議　事　項
第１回（Ｒ７．８．２０）	・小中学校配置最適化について ・市立高校改革の検討について
第２回（Ｒ７．１１．７）	・部活動地域展開について ・不登校対策について ・学校給食について
第３回（Ｒ８．２．１８）	・令和の日本型学校教育の推進について ・情報リテラシーに関する取り組みについて
第４回（Ｒ８．３．２５）	・小中学校配置最適化について

４　教育委員が出席した主な活動内容

（1）学校計画訪問

小学校　　２２校

中学校　　９校

義務教育学校　　１校

（2）教育委員会、小松市等の会議・行事

・研究指定校発表会

・小松市立学校 校長協議会

・小松市社会教育賞贈呈式

・新規採用教職員服務宣誓式

・各校下立志式

・小松市成人式

・小松市功労３賞贈呈式

・小松市文化賞贈呈式

・小学校、中学校卒業式

・中学校古典教室